

## 青森で生きる未来人財育成事業 ボランティアチーム養成講座【第2回】

6月25日(日)14:00~15:00 県総合社会教育センターより配信 受講者 52名

### 1 趣旨

青少年の自己肯定感や主体性を高めることを目的として、高校生を地域で行われるボランティア活動に派遣し、異年齢交流などの多様な体験活動に参加させる。

### 2 内容 【講義】「災害ボランティア」

社会福祉法人 青森県社会福祉協議会 地域福祉課  
課長代理心得 木村 亨 氏



### 3 講義要旨

- 災害ボランティアとは、被災した方々の生活や自立を支援するために活動を行うボランティア活動のことです。活動例には、がれきの撤去・分別、泥だし、室内清掃、サロン活動の支援、物資の仕分け、炊き出し、引っ越しの手伝い、災害ボランティアセンター運営の手伝いなどがあります。
- 災害ボランティアセンターとは、被災地の市町村社会福祉協議会が開設し、行政や地域団体と一緒に、被災地の復興につなげる手助けをする役割（活動の調整役）をします。
- 活動前の心構えとして、ホームページ等で**事前に情報収集**を行い状況確認をすること、体調管理・食料などの準備物は**自己完結・自己責任が基本**であること、チームで活動するために**多様性を尊重**することが大切です。
- 活動する上で、**被災者の気持ちに寄り添う**ことが大事であり、活動後もボランティアをする意義を考え、振り返りを行うことが必要です。

### 4 アンケート結果から

(受講者の感想)

- 災害ボランティアの取り組みには、がれきなどの撤去や泥出しなどの力仕事だけでなく、イベント活動の支援やカウンセリングといったさまざまな種類があることがわかりました。
- 安易な声かけや記念撮影は被災者を傷つけること、自己完結、自己責任が重要であること、そして何より被災者の気持ちに寄り添ってボランティアをすることが大切だとわかりました。
- もし、大雨などの自然災害の被害に遭い、ボランティアを必要としているところがあったら、今日学んだことを活かし、被災者の方のお手伝いをしたいと思いました。
- 被災した人はみんな大変な思いをしているけれど、中でも高齢者や体が不自由な人、小さい子供やその母親などは様々な問題を抱えていることが多いと思います。被災地のボランティア活動に行く時は被災者に寄り添った活動ができるといいなと思いました。
- 最近自然災害が多く、青森県の豪雨にはショックを受けました。もし別の災害が起こった時に自分は何ができるのか、何をしなければならぬのか、これから考えていきたいです。

第2回の講座では、昨今の自然災害における災害ボランティア活動の実態を詳細に教えていただきました。特に、災害ボランティアセンターの役割、活動事例、ボランティア活動をする際の注意点など、災害ボランティア活動をするために必要な心構えや行動の仕方について学ぶことができた有意義な講座となりました。

活動するうえで一番大事なこと



自分の家がこういった状況になった時、どんな気持ちになりますか？

被災者の気持ちに寄り添う